



ひまわり

7 2019
JUL

もくじ

- 2 情勢「65歳になったからこそ」と胸をはって！！
- 3 みんなの“思い”届けてきました！
- 4 いっぱいボーナスかせぐぞ！
- 5 ちょっと聞いてよ！（第21回）
ハートフェスタ2019開催のお知らせ
- 6 7 亀岡福祉会決算報告
- 8 お知らせ・時・ご寄付



保津町からお花をいただき植えています（デイセンターぽればれ）

社会福祉法人 亀岡福祉会

○法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蕨田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

「65歳になったからこそ」 と胸をはって！！

西村 直

TADASHI NISHIMURA

社会福祉法人 亀岡福祉会
理事長

去る5月23日、亀岡のメンバー、家族、職員が全国の仲間と一緒に国会請願行動に参加し、京都選出の国会議員さんに願いがいつぱい詰まった署名を渡してきました。今日はその願いのひとつである「65歳問題」を取り上げます。

障害者総合支援法の問題点

利用者の多くが65歳を迎え、これからどんな福祉的支援を受けながら安心、安定した生活を送っていかばいいの、その選択をする大切な時期にさしかかっています。その際に直面するのが介護保険制度と障害者福祉制度の利用をどうとらえるのか、いわゆる「65歳問題」が大きな課題になってきます。

この問題を考える際に最も大切なことは「現状の生活がしにくくなり、我慢することが増えること」が起きないようにすることです。具体的には現状の福祉的支援(サービ)の内容が削減される、または経費負担が増え生活に支障が起きることがないようにすることです。

しかし、現行の障害者総合支援法第7条で定められている「介護保険優先原則」の規定により上記の前提が崩れ

ることが生じています。65歳の誕生日がくると介護保険の申請を進められます。申請と同時に介護保険のホームヘルプ、デイサービス、ショートステイに相当するサービスが優先され、結果的に利用時間が減ってしまう、非課税世帯も含めて介護保険利用料に1割の負担が発生する、介護保険申請後は65歳前のサービス利用の状態に戻すことができなくなるなどで、65歳までの生活の継続が難しくなる例が生じています。

市町村によるサービスの違い

国の通知では「障害者の心身の状況やサービス利用を必要とする理由は多様で・・・(略)一律に当該介護保険サービスを優先的に利用するものではない」(平成27年厚労省発出)との通知や「介護保険優先原則を廃止し障害者の特性に配慮した選択制等の導入をはかること」と明記した平成22年障害者自立支援法違憲訴訟基本合意文書などがその原則のほずです。

市町村は介護保険の申請をおこなった人に対しては、介護保険だけでは不足してしまうサービスの内容や量を勘案し、障害者福祉サービスで「上乘せ」

する仕組みになっています。しかし、介護度や障害支援区分などを理由に上乘せを検討しない、量や内容に制約をかけるなどの市町村が少なくないので

「65歳になったからこそ」 と胸をはって！

と胸をはって！

障害のある人が迎える65歳の誕生日が「いままでの生活(社会参加)の範囲や時間が狭まるあらゆる我慢の生活」のスタートにならないよう、「65歳になったからこそ、私はこんな生活をしてほしい」「人生をエンジョイしたい」「そのために必要な介護保険も障害者福祉サービスも両方を使いたい」と胸をはって主張することが大切でしょう。

700人の国会議員さんが、高齢期を迎えた障害のある人たちの「年をとっても安心して、私らしく生きていきたい」との願いと現状をより理解いただき、関連制度の完全な実施と必要な改善のためにも、当面は全国から100万筆を超えた請願署名に込められた思いに「請願採択」という形でお答えしていただくことを心から願うものです。

みんなの“思い”届けてきました

第42次国会請願署名にご協力いただきありがとうございました!

署名到達：10,295筆

募金到達：355,928円



去る5月23日(木)きょうさ
れん第42次国会請願署名の採択
に向け国会請願行動に参加して
きました。

毎年、障害のある人たちが自
分らしく、あたりまえに働き、
暮らせる社会をめざし、地域の
共感の輪を広げながら多くの方
の協力をいただき署名・募金運
動を進めてきました。昨年12月
から進めてきた取り組みは、請
願行動当日には10,000筆
を超える署名、30万円以上の募
金となり、改めて地域の方から
の理解と共感の輪が深まってい
ると実感することができました。
たくさんのご協力誠にありがと
うございました。

願いのたくさんつまった署名
を手に亀岡からは障害当事者2
名、家族の方3名、職員2名で
参加してきました。当日は全国

から思いを一つにした仲間たち
が450人以上集まり、700
名を超えるすべての国会議員の
事務所を訪問し障害者を取り巻
く現状と請願項目をもとに障害
者施策の拡充を訴えてきました。
京都支部からも亀岡チームを含
む14名が参加し地元京都の国会
議員の方を訪ねました。

参加したかめおか作業所の森
さんからは「一人暮らしがした
い、でもお金がかかる」「結婚す
るのが夢」と伝え、同じくかめ
おか作業所の小林さんからも
「お母さんと一緒に暮らし続け
たい」など、今の気持ちを率直
に議員の方に伝えました。また、
家族の方からも「自分たちはあ
る意味、卒業のない保護者をし
ている。本人たちが望む生活を
させてほしい」「子供も親も安心
できる社会にしてほしい」と切
実な思いを訴えてきました。あ
る議員からは「本人が望む生活
ができるようがんばる」と言葉
を聞くこともできました。

一筆一筆の署名にこめられた
願い、私たちの大きな大きな力
になり、後押しとなります。
「だれもがあたりまえに自分ら
しく暮らせる地域」を引き続き
みんなでめざしていきましょう。

文責：檜原卓治

(第二かめおか作業所)

参加者の感想

初めての請願行動でした。たくさんの人でびっくりした。東京に行って議員さんに会って、「ひとり暮らしをしたいと思っています。お金が足りないし安心できないし、僕の給料が少ない。年金ももう少しほしい」と分かって欲しい事を伝えました。「よろしくお願いします!!」と署名を手渡すと「また見ときます」と議員さんが答えてくれました。東京見物は時間の関係でできなかったけど、東京駅でメンバーのお土産・クッキーを買いました。
(かめおか作業所 メンバー)

私達の願いは市や府に要望しても法の壁があり、国にお願いするしか叶わない事があります。きょうされんはこれまで42回の請願行動によって、私達の子供のより豊かな暮らしを実現してきた事に感動し、その中に参加させて頂き感謝の想いになりました。
(かめおか作業所 保護者)

今回初めて国会請願行動に参加させて頂きました。全国から440名以上が集合、その後数名の班に分かれて議員会館をまわりました。京都選出の議員さんにお会いする事ができ、一人一人の思いや願いを直接伝えることができました。ずっしりとした署名の束を見て、署名活動を続けていく事の大切さ、思いを伝え続けることの大切さを痛感した一日となりました。
(かめおか作業所 保護者)